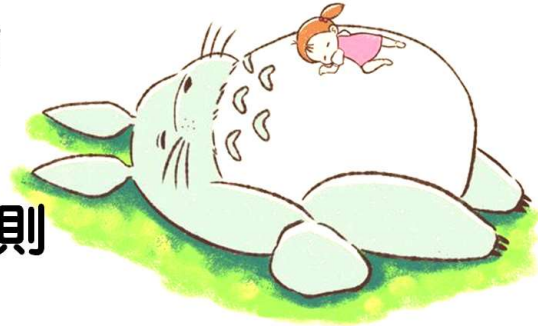


総合医療論

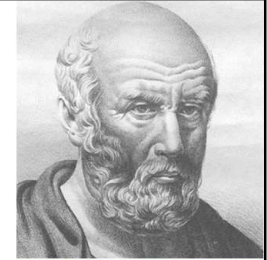
第4回目

医療倫理4原則



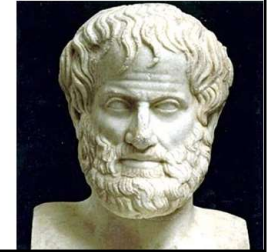
ヒポクラテス

BC 400年頃の古代ギリシアの哲学者(医師)。
 医学を原始的な迷信や呪術から切り離し、臨床と観察を重んじる**経験医学へと発展**させた。
 ヒポクラテスは文書を残していない。すべて弟子たちの記録が残っているのみ。



アリストテレス

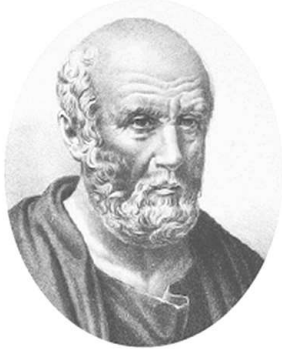
BC 350年頃の古代ギリシアの哲学者。
 プラトンの弟子、ソクラテス、プラトンとともに西洋最大の哲学者の一人とされる。
 倫理学、自然科学などを学問として分類し、それらの体系を築いた業績から「万学の祖」とも呼ばれる。
動物に関する体系的研究は古代世界で類を見ない。



現在の医療はヒポクラテスがお手本

ヒポクラテスの教義

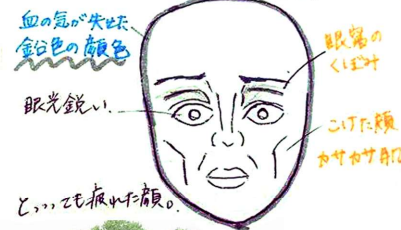
1. **すべてを観察せよ。**
 何事も偶然に任せてはならぬ。
2. **病気より病人を見よ。**
 外見、食事、習慣、年齢、言葉、しきたり、沈黙、嗜好等が暗示しているものを見よ。
3. **正直に評価せよ。**
 現在、過去、未来を明言できれば信頼を得ることができよう。
4. **自然を助けよ。**
 二つの習慣を身に付けよ、助ける事と害を与えないことである。



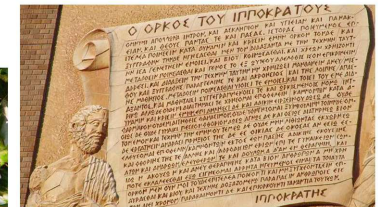
ヒポクラテス顔貌

苦悶表情

ヒポクラテス BC460~BC370年頃



ヒポクラテスの誓い





ヒポクラテス全集

ヒポクラテス全集には、臨床記録、医学の教科書、講義録、研究ノート、哲学的エッセイといった様々な種類の文書が順不同の形で収められ、医学の専門家から一般人まで幅広い読み手を想定して書かれている。

著名な文書としては、『ヒポクラテスの誓い』、
『予後論』、『急性病の養生法』、
『箴言(しんげん)』、
『空気、水、場所について』、
『流行病』、『神聖病について』、
『古い医術について』などがあげられる。



箴言 第一章・第二章

第一章

- 1-01. 命短し、医術は遠し。好機は一瞬、試行は功せず、診立ては難し。
- 1-02. 自然な下痢や嘔吐は、出るべきものが出るのであるから、それはよいこと。
- 1-11. 病気の勢いが強い時の食物は有害で、この時期には食餌を制限するべきである。
- 1-12. 病気の勢いが強まるか弱まるかは、個々の病気、季節、周期によって決まる。
- 1-23. 吐瀉物は、その量を判定するのではなく、その内容物がどうかを判断する。
- 1-24. 急性疾患において、その初期に催吐剤の使用は控え、検査した後を使用すること。
- 1-25. 出るべきものが出るなら、患者にとってよいことで、充分それに耐えうるだろう。

第二章

- 2-01. 眠ると苦痛になる病気は致命的だが、眠ると楽になる場合は命には関わらない。
- 2-02. 眠ることで意識混濁が治まるなら、それは良い徴候である。
- 2-11. 身体を満たすのは、食物よりも飲み物の方が簡単である。
- 2-12. 分利(病気の峠)の後にも症状が残っているなら、その病気は再発する。
- 2-39. 老人は若者よりも病気になりにくい。しかし慢性疾患に罹ると死ぬまで続く。
- 2-54. 体格のよい人は若い時には見た目がよいが、老人になると不便で魅力が薄れる。

箴言 第三章・第四章

第三章

- 3-01. 季節の変わり目には病気になりやすい。
- 3-02. 体質については、夏に順応しやすいものと順応しにくいものがある。
- 3-27. 思春期に近づいた頃には、持続性の発熱、鼻出血が生じやすい。
- 3-28. 子供の病気のは40日、7ヶ月、7年、あるいは思春期に近づいた頃に峠を迎える。
- 3-29. 青年男子では、肺結核、咯血、癲癇、その他の病気が起きやすい。
- 3-30. 青年期を過ぎた人では、喘息、肋膜炎、肺炎、マラリア、コレラ、…が起きる。
- 3-31. 老人では、呼吸困難、排尿障害、関節痛、卒中、搔痒、下痢、白内障、…が起きる。

第四章

- 4-01. 便秘の妊婦は、妊娠四ヶ月から七ヶ月の場合には下剤を用いるべきである。
- 4-02. 強制的に排出させる場合には、自然に出たがっている物を排出させること。
- 4-21. 真っ黒な便が自然に排出されるなら、熱に関係なく非常に悪い徴候である。
- 4-22. 発病の初期に黒い胆汁の嘔吐や排泄があるのは、致命的な徴候である。
- 4-80. 尿に血液混入、排尿困難、下腹部に痛みがある時には、膀胱周囲に病気がある。
- 4-81. 尿に血液や膿、鱗片状の物が混じり、臭いが強い時は、膀胱に腫瘍がある。
- 4-82. 尿道に腫瘍ができた時には、化膿して破裂すると治る。
- 4-83. 夜間に尿が多く出る時には、排便が不足していることを示している。

箴言 第五章・第六章・七章

第五章

- 5-01. キンボウゲ科の葉草（嘔吐剤）を飲んだ後に痙攣が起きると命に関わる。
- 5-02. 怪我をして痙攣が起きると命に関わる。
- 5-72. 黄疸を起こしている人はあまり鼓腸にならない。

第六章

- 6-01. 慢性の消化不良の場合、酸性の嘔気（げっぷ）が出るのはよい徴候である。
- 6-18. 膀胱、脳、心臓、横隔膜、小腸、胃、肝臓にひどい損傷を受けると致命的である。
- 6-53. 狂乱状態にあっても笑っていれば危険はないが、抑鬱状態なら危険である。
- 6-60. 慢性の股関節疾患において骨が脱臼した時、そこを放置していると不具となる。

第七章

- 7-09. 出血時に意識が混濁したり痙攣するのはよくない。
- 7-14. 頭を強打して感覚が麻痺したり意識が混濁するのはよくない。
- 7-21. 強く拍動している傷から出血するのはよくない。
- 7-34. 尿の表面が泡立つ時、腎臓に病気があり、その病気が長引くことを示している。
- 7-87. 薬が効かない時はメス、メスが効かない時は火、火が効かない病気は治らない。

ヒポクラテスの誓い

医神アポロン、アスクレピオス、ヒギエイア、パナケイアおよびすべての男神と女神に誓う。私の能力と判断にしたがってこの誓いと約束を守ることを。

1. この術を私に教えた人をわが親のごとく敬い、わが財を分かって、その必要あるとき助ける。
2. その子孫を私自身の兄弟のごとくみて、彼らが学ぶことを欲すれば報酬なしにこの術を教える。そして書物や講義その他あらゆる方法で私の持つ医術の知識をわが息子、わが師の息子、また医の規則に基づき約束と誓いで結ばれている弟子どもに分かち与え、それ以外の誰にも与えない。
3. 私は能力と判断の限り患者に利益すると思う養生法をとり、悪く有害な方法を決してとらない。
4. 頼まれても死に導くような薬を与えない。それを察知させない。婦人を産産に導く道具を与えない。
5. 純粋と神聖をもってわが生涯を貫き、わが術を行う。
6. 結石を切りだすことは神に誓ってしない。それを業とするものに委せる。
7. いかなる患者を訪れる時もそれはただ病者を益するためであり、あらゆる勝手な戯れや墮落の行いを避ける。女と男、自由人と奴隷の違いを考慮しない。
8. 医に関する関しないにかかわらず他人の生活について秘密を守る。
9. この誓いを守りつづける限り、私は、いつも医術の実施を楽しみつつ生き、すべての人から尊敬されるであろう。もしこの誓いを破るならばその反対の運命をたまわりたい。

医療倫理(生命倫理)原則を理解する

治療は患者と医療従事者の信頼関係を基礎にした共同作業である。したがって、患者の権利を尊重する姿勢を崩してはならない。

- 正義公平原則・・・公平で正しく扱う事
- 善行原則・・・患者に善をもたらすこと
- 無危害原則・・・患者に害のないようにする
- 自律尊重原則・・・患者の自己決定を尊重する



覚え方

医療倫理原則は

生前のムキムキ 自立村長
 (正義原則) (善行原則) (無危害原則) (自律尊重原則)

ビーチャムとチルドレス

「医療倫理の4原則」とは、自律尊重、無危害、善行、正義の4つのことですが、これは1979年にこの2人が提唱した原則のセットです。



ヒポクラテスの誓いと医療倫理四原則

医療倫理四原則

利益と負担を公平に配分せよ(正義原則)
 利益をもたらせ(善行原則)
 危害を及ぼすことを避けよ(無危害原則)
 自律的意思決定を尊重せよ(自律尊重原則)

ヒポクラテスの誓い

3. 私は能力と判断の限り患者に利益と**思う養生法をとり**、悪く有害な方法を決してしない。
4. 頼まれても死に導くような薬を与えない。それを察知させない。同様に婦人を流産に導く道具を与えない。
5. 純粋と神聖をもってわが生涯を貫き、わが術を行う。
6. 結石を切りだすことは神に誓ってしない。それを業とするものに委せる。
7. いかなる患家を訪れる時も、それはただ病者を**益するためであり**、あらゆる勝手な戯れや墮落の行いを避ける。女と男、自由人と奴隷の違いを考慮しない。
8. 医に関する関しないにかかわらず**他人の生活について秘密を守る**。

医療倫理四原則

正義原則とは、
 「社会的な利益と負担は正義の要求と一致するように配分されなければならない」ことである。

各人にその正当な持ち分を与える主な道德規則

- 1) 根拠のない差別をなくす
- 2) 競合する要求の間に適正なバランスを確立する
- 3) 各人の功績等に応じ配分せよ
- 4) 自由な市場取引に配分を委ねる

医療倫理四原則

善行原則とは、
 他人の利益のために行為すべきであるという道德的責務である。

この原則を支持する主な道德規則

- 1) 他人の権利を保護・擁護せよ
- 2) 他人に危害が及ぶのを防げ
- 3) 障害者を援助せよ
- 4) 危機に瀕した人を援助せよ

医療倫理四原則

無危害原則とは、
 「危害を引き起こすのを避けるという規範」あるいは、「害悪や危害を及ぼすべきではない」ことであると定義される。無危害の責務は、危害を加えない責務だけでなく、危害のリスクを負わない責務も含む。

無危害原則が支持する主な道德規則

- 1) 殺すな
- 2) 苦痛や苦悩を引き起こすな
- 3) 能力を奪うな
- 4) 不快を引き起こすな
- 5) 他人から良いものを奪うな

医療倫理四原則

自律尊重原則とは、
患者が治療上の決定を下すために必要な情報を開示し、自律的な決定を促進することである。

自律尊重原則を支持する主な道德規則

- 1) 真実を語れ
- 2) 他人のプライバシーを尊重せよ
- 3) 秘守情報を保護せよ
- 4) 侵襲のための同意を得よ
- 5) 依頼された場合、他人が重要な決定を下す援助をせよ

医療倫理(生命倫理)原則を理解する

治療は患者と医療従事者の信頼関係を基礎にした共同作業である。
したがって、患者の権利を尊重する姿勢を崩してはならない。

- 正義公平原則 ・ ・ 公平で正しく扱う事
- 善行原則 ・ ・ 患者に善をもたらすこと
- 無危害原則 ・ ・ 患者に害のないようにする
- 自律尊重原則 ・ 患者の自己決定を尊重する



覚え方

医療倫理原則は

生 前 の ムキムキ 自立村長
(正義原則) (善行原則) (無危害原則) (自律尊重原則)

